

第6学年 国語科の実践

1. 単元名 「みんなで楽しく過ごすために」(全6時間 本時5時間目)

2. 単元目標

- ◎思考に関わる語句の量を増し、話の中で使うことができる。
- ◎互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。
- 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。
- 目的や意図に応じて、日常生活の中から課題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができる。

3. 「ひびきあう三の丸の子どもたち」をめざすための指導の工夫

研究課題「子どもが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」

手だて・・・子どもの願いや思いを見とった単元構想と授業づくり

高学年ブロックテーマ「仲間への理解、自立する自分」

・仲間を理解しつつ、自分の思いも大切にする姿 ・新しい価値観にふれ、自分を再構築する姿

学習に対しては、真面目に取り組もうとする。特に体験活動やICTを活用した学習にはより進んで取り組む様子が見られる。一方で学習活動の中で、「どうしてそうなるのか?」「なぜだと思う?」といった課題に対してじっくりと自分なりに考え方を見つけようとしている課題があった。0か100ではなく、自分がわかるところまで、自分がわかる一部分だけでも考え方を書いたり伝え合ったりするのが大切であることを年度当初から伝えてきており、最近少しづつそのような姿勢がみられるようになってきた。

また、学習の内容に関しては教師が、自分たちが少し頑張れば解決できそうな課題になるように修正したり計画したりすることで児童の意欲を保てるようとしている。また発言においては、その場限りの思いつきが多くったり、固定化したりしている傾向がある。必ず発言する必要は無いのだが学びあうためにはよりたくさんの方の考えが出ること、自分の考えが深まることが大切であることを子どもたちにも伝え、反応したり自分の立場をはっきりとさせるために挙手をしたりネームプレートを活用したりしているところである。

話したり聴いたりする場面では、全体の場で改まって話すことへの苦手意識をもっている児童もいる。周りからの見られ方、間違えることへの不安などが大きな要因のようである。担任が、間違えをよいものとして受け止めたり、雰囲気作りをしたりして環境づくりに努めている。様々な学習の中で「友だちの話をきき、わかるところまでつないで、みんなでできた」経験を多く設け、「ひびき合い」の土台となる「聴く・話す」習慣作りを年度当初から行っている。

これまでの関わり合い・ひびき合いでは、グループ活動や話し合いにおいて、少人数や気の合う友だちは教え合ったり、質問し合ったりする姿がある。ただ、全体での話し合いとなると、どこか他人事になり相手の考えを受け止めようとする姿が大いに求められた。そこで、「自分の考えと同じ人を見つける時間」「自分と考えが違うことをみつける時間」「〇分の中で▲人と交流する【異性も1人以上含む】」といった学習の交流の時間に条件を持たせるようにしている。日頃の仲の良い人間関係に終始しない学習中の交流をもつことで、全体の場になった時にも自信をもったり安心したりして発言できるようにしている。少しづつではあるが、様々な友だちと壁を作らず交流する姿も見られる。

また、相手意識をもって話したり友だちの意見につなげて考えて聴いたりする場面が少しづつではあるが、見られたときは価値付け広めようと指導している。算数の解法の説明をする時や、理解がなかなか難しい問

題の時、子どもたち同士でつなぐことで、みんながわかった（理解できた）ということがあった。また、総合的な学習の時間のテーマ決めにおいては、1年間かけて自分たちが取り組みたいものに取り組める喜びから同じテーマを共有する人同士が協力し合い、意見を交流し試行錯誤しながらプレゼンの資料を作成していた。そういう自分（たち）にとって直接的に関係のあるものには一生懸命に取り組むことができる。本单元にもつながるような話し合いの場面では、一部の子の発言に終始し、最後は多数決で決めるといったことが多かったが、総合的な学習の時間のテーマに関する話し合いでは、自分の考えが多数派であろうと少数派であろうと全体に伝えることが大切であることや、決まったことにはみんなが向かうこと（文句を言ったりやらないと言ったりしないこと）、話し合いは戦いや勝負ではないのでそれぞれの意見や考えを受け止めることなどを教師は逐一伝えているところである。

4. 単元と指導について

本单元は、学習指導要領では第6学年、知識及び技能（1）才「思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと」、思考・判断・表現A（1）才「互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること」に関連している。子ども達は5年生の時に「どちらを選びますか」「よりよい学校生活のために」で話し合い活動を学習している。自分の立場を明確にして、友だちと対話し話し合う活動を行った。子どもたちの身近なテーマ「きのこの山かたけのこの里か」「朝ごはんは米かパンか」「学校で使うとしたら鉛筆かシャープペンか」といった、根拠を持ちやすい題材をテーマにし、学級討論会をおこなっている。

ここでは、話し合いの学習として小学校最後の学習である。話し合いの見通しをもちながら、主張・理由・根拠を明確にし自分の考えをまとめて話し合いに臨むこと。目的や条件に照らして話し合うこと。そして最後は多数決ではなく、良い点や問題点を明らかにしながら合意形成し解決方法を考えいくことを学ぶ。実際の学校生活で、代表委員会の話し合いや学級活動の話し合いなど、クラスとして結論を出さなければいけない場面は多いが、最後に決める方法としては、多数決になっている現状がある。どうしても半試合の場面では自分の意見が採用されるか。自分の意見は多数派なのかといったところに子どもたちの目はいきがちで、よりよい考え方や折衷案を出すことまで目が行きにくい。また、違う意見の友だちに対しては対抗意識をもつて、批判的な姿勢をみせる。この单元を通して話し合う中での批判的意見も尊重しながらみんなが納得する最適解をみんなで導き出すこと。また、決まったそれに対して行動し検討し再考することで、さらによりよい方法を考えることを学び今後の生活に生かせるようにしていきたい。

本单元では、普段あまり関わりがない2年生との関係づくりをテーマに学習を進めていく。6年生は1年生とたくさん交流し中を深めている一方で2年生とは実はあまり関わっていない現状がある。実際に掃除の手伝いや休み時間に1年生のクラスに行く6年生の姿は見るものの、2年生とかかわっている姿はほとんど見られない。自分のなかよし班の2年生と関わる機会を設けるが、そこではあまり交流がなく名前を知らなかつたり少し気まずかつたりする場面が出てくることが予想される。

導入ではその活動を設定し、その活動を終えて実際に2年生と関わってみての感想を記入するところから始める。そこで、「普段なかなか関わる機会がなかった2年生と触れ合えてよかったです。」「仲良くなれた。」という感想の一方で、「なかなかいうことを聞いてくれず大変だった。」「うまく触れ合うことができずに困った。」という反応が出ることが予想される。また、今回の活動だけでなく、これからは2年生に限らずに他学年と積極的に関わっていきたいと感想もきかれるであろう。そのような感想から話し合いを進めていく中で、今のままの2年生と6年生の関係ではいけないという感想が出てくることが予想される。そこから、どうしてそのような現状があるのか分析していく。仲の深まっている1年生や委員会で関わりのある5年生と比較することで、その原因としてあまり普段から関わっていないことに気づかせたい。関わりさえすれば、より仲が深められることは実感できる。そこで、信頼関係を築いていくには、**どうすればもっと2年生となり仲良くなれるか?**を話し合いのテーマにしていく。

話し合いの中では、教師の出どころとして単に出てきたものを多数決にせずに、子どもたちの評価軸は目的や条件にそっているか常に立ち返るように問い合わせていく。また、自分と違う意見に対して批判したり言いくるめようとしたりしている姿が見られた場合は、決して1つの意見に強引に決めるのではなく、みんなが合意形成しながらクラスの結論を導くよう声かけをしていく。

本時では「2年生とより仲良くなれるためにどのような活動をしていきたいのか」これまでの経験をもとに友だちと話し合い考えを深める姿をひびき合いの姿としたい。

5. 単元構想 6年国語科「みんなで楽しく過ごすために」全7時間 本時4時間目

単元目標

- ◎思考に関わる語句の量を増し、話の中で使うことができる。
- ◎互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。
- ◎言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。
- ◎目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができる。

2年生と虫探しに行ってどうだった？①

- ・楽しかった。・かわいいかった。・虫が見つからなくて大変だった。
- ・自分の班の2年生の名前が分からなかった。・うまくいかなかった。
- ・なかなか言うことを聞いてくれなかった。・1年生とは違った。

・話がききづらいな
・手を振らねば
・名前を大切に

全員の感想を教師が把握するために、オクリンクを使う。

この現状をどう思う？②

- ・なんで1年生は話を聞いてくれるのに、2年生ではうまくいかないのか。~~・1年生が他の学年の子は知らない。~~
- ・今ままじゃ心配、よくないと思う。~~・もっと2年生と関わることを増やしたほうがいい。~~
- ・わくハイが心配かも。~~・名前を覚えたほうがよさそう。・今までのひがし班でも大変な思いをしてる。~~
- ・1年生とは入学の時から関わっていて、休み時間も遊んでいる。~~・2年生とは遊ばないかもしれない。~~
- ・信頼関係がなかつたら、言うことを聞こうとは思わないな。~~・1年生と2年生の関係を比較したり、児童の2年生観を問い合わせたりして、話し合う動機を強化していく。~~
- ・もっとも、~~1年生と関わることを増やして、もともと仲良くなりたい。~~

これまでの経験を関係づけ、伝え合う内容を検討している。(思・判・表)

もともと1年生と仲良くなりたい？③

2年生と信頼関係を築くためにはどうするべきか④(本時)

- ・遊び ○楽しい。クラスごとに遊ぶ時間を作りたい。休み時間に遊びに行ってみたらどうかな。

△1回の遊びで変わるかな？何回か遊んだほうがいい。

- ・掃除 ○少ない人数での関わりで、名前も覚えられそう。

自分も1年生の時、6年生に掃除の仕方を教えてもらったことがある。

△全員で行くと自分たちの掃除をやる人がいないから、順番に行く必要がある。

- ・給食 ○楽しい。一緒に食べられたらうれしい。

△食べるだけで信頼関係ができるのか。

- ・学習 ○6年生が2年生に教えてあげられる。「6年生ってすごい」と思ってもらえそう。

クロームブックの使い方を教えてあげるのはどうか。

自分たちの授業を見てもう・参加してもらうのはどうか。

△どの教科でやるの？いつでもできるわけではない。

~~考えを広げる話し合いのときは、実施可能・不可能にとらわれすぎず、考え方をもつことができるようとする。~~

~~考え方をまとめるとときは、多数決で決めるのではなく、折り合いをつけていくように促す。~~

~~現状と、もともとを比較するところ、目的を明確にしそうにし、後の話し合いで大切な「条件・目的」をはかりにす。~~

現状	もともと
・休み時間も遊び	・名前を覚えてない
・1年の教室に行く	・1年生から向かっては笑顔で話す
・強引な手強い	・あいさつが
(イマジネー)	・元気なでさ子
・大人教ぐ	・しゃべりでいい
(じゆが)	・3歳の子と話す
・名前を覚えてない	・現状で解消

・互いの立場や意図を明確にしながら話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(思・判・表)

・粘り強く考え方を広げたりまとめたりし、目的を意識して話し合おうとしている。(態度)

1年生ともっと仲良くなるためにはどんなことをやろうかな？③

考えられる例

- 遊び ○楽しい。クラスごとに遊ぶ時間を作りたい。休み時間に遊びに行ってみたらどうかな。
△1回の遊びで変わるかな？何回か遊んだほうがいい。
- 掃除 ○少ない人数での関わりで、名前も覚えられそう。
自分も1年生の時、6年生に掃除の仕方を教えてもらったことがある。
- 給食 ○楽しい。一緒に食べられたらうれしい。
△食べるだけで信頼関係ができるのか。
- 学習 ○6年生が1年生に教えてあげられる。「6年生ってすごい」と思ってもらえそう。
クロームブックの使い方を教えてあげるのはどうか。
自分たちの授業を見てもらう・参加してもらうのはどうか。
△どの教科でやるの？いつでもできるわけではない。

条件や目的を意識しながら自分なりのアイデアを考え、ノートにまとめている。(思・判・表)

条件

- 学校生活の中でできること

- わくハイ前までに実施できる内容

目的

- 1年生ともっと仲良くなること（前時の表に具体例はあり）

話し合いの進め方を知る

教科書P140を参考しながら6-1の話し合い方法を考え、子どもたちの言葉でまとめるようとする。

- 1人ずつ意見をだしあう
- 互いに質問し合い、疑問点などを明らかにする
- 出た意見を整理する
- 目的と条件に照らして話し合いの結論を出す

①単純多数決					
一番票の多い駄菓子屋さんが選ばれます。					
Aさん	Bさん	Cさん	Dさん	Eさん	結果
お化け屋敷			○		1位
英語劇	○				2位
駄菓子屋さん	○	○			3位
ゲーム大会			○		4位

②ポイント制					
1位、2位、3位、4位にそれぞれ3点、2点、1点、0点を与える「ポイント制」の場合、お化け屋敷が選ばれましたが、唯一高得点の3点を2人がつけた駄菓子屋さんが選ばれなくなってしまいました。					
Aさん	Bさん	Cさん	Dさん	Eさん	結果
お化け屋敷	1点	2点	2点	3点	1位 9点
英語劇	3点	1点	1点	1点	6点
駄菓子屋さん	0点	3点	3点	0点	2位 6点
ゲーム大会	2点	0点	0点	2点	3点

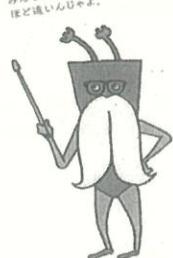
③少ない順に削除していく方法					
一番票が少なかったものをけりながら、何度も投票を繰り返す方法で決めていくと(下の例では、1回目の投票のみ、1人2票に投票しています)。最終的に残ったのが、ゲーム大会でした。					
Aさん	Bさん	Cさん	Dさん	Eさん	結果
お化け屋敷	○	○	○		3位
英語劇		○	○	○	1位
駄菓子屋さん	○	○	○	○	2位
ゲーム大会				○	4位

④総当たり戦					
それぞれの楽ごとにどちらがやりたいかを投票する「総当たり戦」では、どの案も一度は負けるので、決めることができません。					
Aさん	Bさん	Cさん	Dさん	Eさん	結果
お化け屋敷 vs 英語劇	お化け	お化け	お化け	お化け	お化け屋敷
お化け屋敷 vs 駄菓子屋さん	お化け	駄菓子	駄菓子	お化け	駄菓子屋さん
お化け屋敷 vs ゲーム大会	ゲーム	お化け	お化け	お化け	お化け屋敷
英語劇 vs 駄菓子屋さん	英語	駄菓子	駄菓子	英語	駄菓子屋さん
英語劇 vs ゲーム大会	英語	英語	英語	ゲーム	英語劇
駄菓子屋さん vs ゲーム大会	ゲーム	駄菓子	駄菓子	ゲーム	ゲーム

⑤勝ち抜き戦					
2つずつ順番に投票をして決めていくやり方ですが、「総当たり戦」の表からも分かるように、そもそも一番最初にどの2つで投票を行うかで大きく結果が変わってしまうことがあります。					
Aさん	Bさん	Cさん	Dさん	Eさん	結果
お化け屋敷 vs 英語劇	お化け	お化け	お化け	お化け	お化け屋敷
お化け屋敷 vs 駄菓子屋さん	お化け	駄菓子	駄菓子	お化け	駄菓子屋さん
お化け屋敷 vs ゲーム大会	ゲーム	お化け	お化け	お化け	ゲーム

教科書P140を参考しながら6-1の話し合い方法を考え、子どもたちの言葉でまとめるようとする。

結論を絞る方法として、単純多数決だけでなく、少ない順に削除していく方法、ポイント制、総当たり戦なども例示するとともに、積極的に反対する人がいない状態(合意が形成された状態)を作ることができるようになる。(左図参照)



1年生ともっと仲良くなるためにはどんなことをやるか決めよう ④本時

- ・遊び ○楽しい。クラスごとに遊ぶ時間を作りたい。休み時間に遊びに行ってみたらどうかな。。ミニ運動会
△1回の遊びで変わるかな？何回か遊んだほうがいい。~~校内ウォークランをやるのは？~~
- ・掃除 ○少ない人数での関わりで、名前も覚えられそう。
- ・遠足 自分も1年生の時、6年生に掃除の仕方を教えてもらったことがある。~~一緒に弁当を持て、近くの公園~~
△全員で行くと自分たちの掃除をする人がいないから、順番に行く必要がある。~~行く順序について~~
- ・給食 ○楽しい。一緒に食べられたらうれしい。~~給食時間は誰談の方が盛り上がるし、石前に覚えられそう。~~
△食べるだけで信頼関係ができるのか。
- ・学習 ○6年生が2年生に教えてあげられる。「6年生ってすごい」と思ってもらえそう。

クロームブックの使い方を教えてあげるのはどうか。
~~校外学習に、2年生の時に同じようにしていくのはどう？~~

前時までに確認していた「条件や目的」「もっともっとの具体的な姿」「話し合いの方法」を掲示し、話し合いのよりどころとなるようにする。また、話し合いの内容がぞれたときに立ち返る際にも使用する。

- ・互いの立場や意図を明確にしながら話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(思・判・表)
- ・粘り強く考えを広げたりまとめたりし、目的を意識して話し合おうとしている。(態度)

・一年生にアシートとして、やりたい事を書いてみるのはどう？
→ 実際に一年生の先生に一年生にさとりをして！

1年生と一緒に給食＆遊びをしよう ⑥※掃除や給食になった場合は時数外になる。

校外学習

交流を振り返ろう ⑦※1クラスごとに交流を行った場合、振り返り→実践を繰り返していく。

- ・一年生がどうやってから来るかを考えながらさとり始めた。
- ・これまで仲が深まるか、石前も覚えられるかを考えながらできた。
- ・難い言葉ではなく、一年生がわかる言葉は何か、どうしてからわざりやすく伝えねば工夫して言おせん。
- ・他の学年とも、シカウ関わりをしていく。
- ・初めての子に声をかけるのは不安だけど、声をかけてみると、案外仲良くなれるから1年生でやじめて、他の学年でもできるようにしていく。

学習活動	◆評価【観点】																		
<p>◎一年生ともっと仲良くなるためにはどんなことをやるか決めよう</p> <p>目的：1年生ともっと仲良くなること ⇒ 第2時で確認した姿の掲示</p> <p>条件：わくハイ前までにできる 学校生活の中でできること</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>遊び（休み時間）</td> <td> <input type="radio"/> 楽しい <input type="radio"/> クラスごとに遊びたい <input type="radio"/> 休み時間に一緒に遊ぶ時間をつくる </td> <td> <input type="triangle"/> 一回の遊びで名前を覚えられるのか <input type="triangle"/> 何回かやることになる </td> </tr> <tr> <td>遊び（学習時間）</td> <td> <input type="radio"/> 協力して作ることができ、より仲が深まる。 </td> <td> <input type="triangle"/> そういった時間がどれのかわからなさい。 </td> </tr> <tr> <td>学習（校外学習）</td> <td> <input type="radio"/> 名前を覚えやすい <input type="radio"/> たくさんふれあえる </td> <td> <input type="triangle"/> 1年生が予定があるのかどうか。 </td> </tr> <tr> <td>学習（教科）</td> <td> <input type="radio"/> 楽しい <input type="radio"/> 一緒にでききたら会話もできる <input type="radio"/> 協力して作ることで仲も深まる </td> <td> <input type="triangle"/> 学習内容があわない <input type="triangle"/> 調整が難しい </td> </tr> <tr> <td>給食</td> <td> <input type="radio"/> 楽しい <input type="radio"/> 一緒にでききたら会話もできる </td> <td> <input type="triangle"/> 本当に一緒に食べられるのか <input type="triangle"/> 配膳はどうするのか </td> </tr> <tr> <td>ウォータリー</td> <td> <input type="radio"/> ふれあう機会はたくさんとれるし、楽しい。 </td> <td> <input type="triangle"/> 準備する時間が足りない </td> </tr> </tbody> </table> <p>遊びにやりたい詳細が出た場合は、枠外に記入し遊びに決まった時に決めることとする。</p>	遊び（休み時間）	<input type="radio"/> 楽しい <input type="radio"/> クラスごとに遊びたい <input type="radio"/> 休み時間に一緒に遊ぶ時間をつくる	<input type="triangle"/> 一回の遊びで名前を覚えられるのか <input type="triangle"/> 何回かやることになる	遊び（学習時間）	<input type="radio"/> 協力して作ることができ、より仲が深まる。	<input type="triangle"/> そういった時間がどれのかわからなさい。	学習（校外学習）	<input type="radio"/> 名前を覚えやすい <input type="radio"/> たくさんふれあえる	<input type="triangle"/> 1年生が予定があるのかどうか。	学習（教科）	<input type="radio"/> 楽しい <input type="radio"/> 一緒にでききたら会話もできる <input type="radio"/> 協力して作ることで仲も深まる	<input type="triangle"/> 学習内容があわない <input type="triangle"/> 調整が難しい	給食	<input type="radio"/> 楽しい <input type="radio"/> 一緒にでききたら会話もできる	<input type="triangle"/> 本当に一緒に食べられるのか <input type="triangle"/> 配膳はどうするのか	ウォータリー	<input type="radio"/> ふれあう機会はたくさんとれるし、楽しい。	<input type="triangle"/> 準備する時間が足りない	<p>◆評価【観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多數決で結論を出すのではなく、話し合いの中で折り合いをつけて結論を出すことができるように決め方や話し合いの仕方にについて掲示しておく。 <p>★焦点化のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 目的や条件にあつていてあるか。（「仲良くなる」とは具体的にどのような姿なのかなど、必要に応じて問い合わせ返す。） これまでの経験で一年生の様子が意見を話すときの根拠になることに気付かせる。 見取りや児童の反応つぶやきをもとに、意図的に指名し、話し合いの内容がはずれたときの修正ができるようにする。 <p>◆互いの立場や意図を明確にしながら考えを広げたりまとめたりしている。【知識・技能】</p> <p>◆粘り強く考えを広げたりまとめたりし、学習の見通しをもって話し合おうとしている。【主体的な態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施したい内容が早く合意形成された場合は、詳細について話し合うこととする 今後は詳細な計画を立てていくことを共にし、次の学習につなげる。 <p>給食</p> <ul style="list-style-type: none"> 六年と二年の教室で給食を食べる。同じなかよし班の人同士で食べる。 給食の後、屋休みに一緒に遊ぶ。
遊び（休み時間）	<input type="radio"/> 楽しい <input type="radio"/> クラスごとに遊びたい <input type="radio"/> 休み時間に一緒に遊ぶ時間をつくる	<input type="triangle"/> 一回の遊びで名前を覚えられるのか <input type="triangle"/> 何回かやることになる																	
遊び（学習時間）	<input type="radio"/> 協力して作ることができ、より仲が深まる。	<input type="triangle"/> そういった時間がどれのかわからなさい。																	
学習（校外学習）	<input type="radio"/> 名前を覚えやすい <input type="radio"/> たくさんふれあえる	<input type="triangle"/> 1年生が予定があるのかどうか。																	
学習（教科）	<input type="radio"/> 楽しい <input type="radio"/> 一緒にでききたら会話もできる <input type="radio"/> 協力して作ることで仲も深まる	<input type="triangle"/> 学習内容があわない <input type="triangle"/> 調整が難しい																	
給食	<input type="radio"/> 楽しい <input type="radio"/> 一緒にでききたら会話もできる	<input type="triangle"/> 本当に一緒に食べられるのか <input type="triangle"/> 配膳はどうするのか																	
ウォータリー	<input type="radio"/> ふれあう機会はたくさんとれるし、楽しい。	<input type="triangle"/> 準備する時間が足りない																	

7. 実践を終えて

本単元では単元の導入において、子どもたちの切実感や必要感が自然と出てくる活動を学年で考えてきた。2年生との校外学習活動を行うことで子ども達は、これまでの他学年と自分たちの関わりを振り返りながら学習を進めることができた。学習が進むにつれて、クラスの子どもたちの思いが、より1年生に対してあるということがわかり、単元構想では2年生とのかかわりを深める活動を考えていたが、1年生とのかかわりを深めていくものに切り替えた。また、実践したほかのクラスにおいてもそれぞれ違う方向性になり改めて、クラスの実態によって学習の方向性は変わることや、目の前の子どもたちに合わせた学習を進めていくことの大切さを知った。

本時における成果と課題について

○子どもたちが意見交流する場面で条件をつけたこと

年度当初から、日頃の仲の良い人間関係に左右されない学習中の交流をもつことで、全体の場になった時にも自信をもったり安心したりして発言できるようにしている。本時はスムーズにかかわる様子が見られよかったです。

○△板書の効果と活用

板書をそれぞれのメリットデメリットに分けて記述することで、自分の考えを整理しながら話し合いに臨む子どもの姿があった。一方で、教師の出どころとして、話し合いの途中で今の自分の考えをノートに記述する時間（自分の考えを持つ時間）をしっかり設けなければいけなかったとも感じている。本時は、2回近くの人と意見を交流する時間を設けたが、話し合いの時に何を話せばいいのかわからっていない児童や十分に考えを持ち切れていないまま参加している児童の姿が見られた。発言しなくても自分の頭で思考したことアウトプットする時間をしっかり確保することでこのようなことは起きなかつたと感じる。

△条件の追加

話し合いの条件が、本時は「学校生活の中でできること」「11月のわくハイまでにできること」というものであったが、それでは範囲が広すぎて意見にも広がりがあり集約したりまとめたりすることが難しいことが実践して分かった。「学習時間を使うなら1時間まで」「今よりも名前を覚えるための取り組み」といった条件を追加することで、出てくる意見や話し合いの視点がもう少し焦点化できたのではないかと感じた。

△歩み寄りの意識

今回の実践で初めておこなってきた合意形成において、話し合いでどうしても自分の意見を押し通そう。相手の意見に勝とうという意識が子どもたちの中に根強く残っているのが実践を通してわかった。そうではなく「歩み寄り」＝「100%ではないけれど50%は受け入れる。だから自分たちの50%も受け入れてほしい。」というような意識を継続して持たせる必要性を感じた。ただ、今回が初めて合意形成による話し合いをおこなったもので、普段の話し合いはどうしても単純多数決で決めるものが多かったようだ。単元を4月にもってきることも一つの方法であると感じた。本校の特色でもあるわくわくハイクに向けた1年生だけでなくほかの学年ともかかわる機会を設けるための話し合いの方法を年度当初に学ぶことにとっても意義があると感じたので、これらの合意形成をする話し合い活動は日々の学活や学校生活におけるクラスの様々な話し合いにも応用できると感じた。

1年生ともっと仲良くなるためには
どんなことをやるかを決めよう

9/25(水) No.61「みんなで楽しく過ごすために」



- ◎交流の条件付 → 前向きに交流していた
立ち歩いて交流していい → 活発にしていた
- ◎板書での比較
 - ・板書を参考にそれぞれの意見を自分なりに比較していた子がいた
 - △合意形成から程遠い子への対応が難しい

これまでの経験を元に話し合
い、歩み寄って話し合う姿

- 条件を明確、追加するとさらに話し合いが活発になるのでは?
 - ・1時間の学習時間内で行う
 - ・名前を覚えられるようにするなど
- 話し合いの形態の工夫
 - ・決められたグループでアイディアを出す方がよい
数を絞れて集約できる
 - ・同じ意見でのグループはいいやすいが、違う意見 の
人と話した方が考えが深まる
- 板書での比較 → 上下での比較もいいのでは
・比較して、自分の考えをノートに整理する時間をとる
と、さらに思考が深まる
- 合意形成から程遠い子への対応
 - ・合意形成よりも感情で判断してしまう子... できないでは
なく「歩み寄る」
 - ・年間を通じて繰り返し積み重ねる必要性がある

ひびき合い

1年生ともつともつと仲良くなるためには
どんなことをやるかを決めよう

「みんなで楽しく過ごすために」



- ◎交流の条件付 → 前向きに交流していた
立ち歩いて交流していい → 活発にしていた
- ◎板書での比較
 - ・板書を参考にそれぞれの意見を自分なりに比較していた子がいた
- △合意形成から程遠い子への対応が難しい

これまでの経験を元に話し合
い、歩み寄って話し合う姿

条件を明確、追加するとさらに話し合いが活発になるのでは?

- ・1時間の学習時間内で行う
 - ・名前を覚えられるようにするなど
- 話し合いの形態の工夫**
- ・決められたグループでアイディアを出す方がよい
数を絞れて集約できる
 - ・同じ意見でのグループはいいやすいが、違う意見の
人と話した方が考えが深まる
- 板書での比較** → 上下での比較もいいのでは
- ・比較して、自分の考えをノートに整理する時間をとる
と、さらに思考が深まる
- 合意形成から程遠い子への対応**
- ・合意形成よりも感情で判断してしまう子... できないではなく「歩み寄る」
 - ・年間を通じて繰り返し積み重ねる必要性がある

ひびき合い